

# 組織経営エネルギー委員会

委員長 寺崎 雄太

## 「この地域で働く意義と目的を最大化し次世代に継承する。」

一般社団法人柏崎青年会議所(以下、本会議所)は、明治以来の石油産業への依存に危機感を感じ 1971 年に原子力発電所の誘致を決議しました。時代を見据えた変化を遂げることで柏崎刈羽地域は約 150 年にわたりエネルギーの街として発展を遂げまいりました。また昨年には日本初のブルー水素実証実験施設の建設が柏崎市で始まるなど、エネルギー関連産業の情勢はこれからも変化し続けます。この地域の未来を担う私たちも時代の変化に危機感を持ち、見識と責任をもってこの地域の将来に大切なことを見極め決断しなければなりません。

世界最大の原子力発電所が立地する地域のリーダーたる私たちは、我が国のエネルギー政策を積極的に学び自らの言葉にして正確に発信する必要がある、その取組は本会議所の伝統でもあります。組織経営エネルギー委員会では JC のネットワークでこの活動を地域の外に広げ、周辺地域を巻き込んだ建設的な運動とすることで我が国のエネルギー政策への貢献を目指します。

かつて石地にて創業した石油会社は、その産業とエネルギーで当地域だけでなく日本全体を支え世界的な企業となりましたが、脱炭素社会に適合する企業を目指し、現在は化石燃料事業が 1/4 程度に縮小された総合エネルギー会社に変化しました。これは組織が時代に合わせて生き残るためには大胆な転換が必要であることを示しています。変化する時代の中で組織が向かうべき方向は私たちが決めなければなりません、その決断の道標となる組織の意義と目的を一人ひとりが再確認し、自社の存在意義を改めて考える機会を提供します。

私たちは家族や所属企業の理解のもとで、青年会議所に集う多様な人材との切磋琢磨を通じて、自身の能力と地域への想いを高めるべく活動しています。与えていただいた環境に感謝しながら、一人ひとりが社会を動かす原動力としてこの地域の課題に逃げずにぶつかり、豊かな柏崎刈羽地域の経済を次世代へ継承することを目指します。

### ・担当例会(3月)

原子力発電所のあらゆる現状を共有するために、Forum21 において見学会を実施し、新潟の青年経済人として原子力発電所再稼働への議論に逃げずに正面から向き合う意識を醸成します。

### ・担当例会(5月)

猛烈な速度で変化していく社会で、組織の揺るがない信念と地域への役割を考えるために、一人ひとりが組織の Purpose(存在意義)を考え、強く必要とされる経営者を目指します。

### ・担当例会(12月)

一年間の事業を振り返り成果を共有することで、次年度以降への継承の場とし、一年間の締めくくりとしてメンバー交流の場を大いに盛り上げます。

### ・新入会員育成勉強会(6月)

新入会員への勉強会を開催することで、新入会員の不安を早期に解消し退会ゼロを目指します。